

平成30年11月27日

庁議資料

## 狛江第一小学校増築工事の見直しについて

### 1. これまでの経過

#### (1) 学校施設における児童・生徒数の変動への対応方針

学校施設における児童・生徒数については、大規模開発に伴う人口増加により、当面の間、児童・生徒数の増加が見込まれ、平成28年度時点の推計において、将来的な普通教室の不足が見込まれた。そのため、それぞれの学校における措置を検討するため、「学校施設における児童・生徒数の変動への対応方針」（以下「本方針」という。）が平成28年8月10日に開催された総合教育会議の協議を経て、策定された。

本方針では、基本的な考え方として「既存の学校と学区域は維持し、必要となる普通教室は、既存の学校（敷地）の中で対応する」こととし、その優先順位として、「①既存の学校スペース（特別教室等）の活用・転用」、「②活用、転用でも対応困難な場合は、校舎の増築」、「③増築でも対応困難な場合は、学区域の見直し」の順で対応することとされた。

#### (2) 具体的対応

ピーク時の28教室の確保に向け、本方針に従い、以下のとおり対応することとした。

- ① 特別活動室、オープンスペース等活用・転用可能な教室等を全て普通教室化 + 8教室
- ② 普通教室化に伴い確保困難となる特別活動室（特別教室、合同授業、少人数指導に活用）を確保するために、敷地内に4階の校舎を増築（1階：倉庫、2階：学童クラブ、3階：特別活動室、4階：特別活動室）
- ③ 増築は既存校舎東側とする

#### (3) 現状

上記対応の計画を平成30年度実施設計、平成31年度工事施工、平成32年度運用開始と定め、近隣説明会を2回（平成30年2月9・10日）実施するとともに、説明会で寄せられた意見に対する回答を行うことを目的として、前回出席者に対する説明会（平成30年2月24日、3月26日）及び近隣マンション理事会に対し、個別協議・説明（平成30年5月16日）を行ったが、理解を得るに至らなかった。そのため、当初予定の平成32年度運用開始は困難な状況となったが、当初の推計で、21教室となることが見込まれていた平成30年4月時点の使用教室数が20教室で収まったことから、引き続き協議を続けることとし、現在に至っている。

理事会等から出されている主な意見は以下のとおり。

- ① 既存校舎の更なる活用で対応可能
  - ・活用可能な教室が存在
  - ・KoKoA・放課後クラブを校舎外へ
- ② 増加は一時的なものであり、将来的に不要になる校舎の増築を優先するのではなく、学

区の見直しなど狛江市全体で増加する児童を吸収すべき。

## 2. 計画の見直し

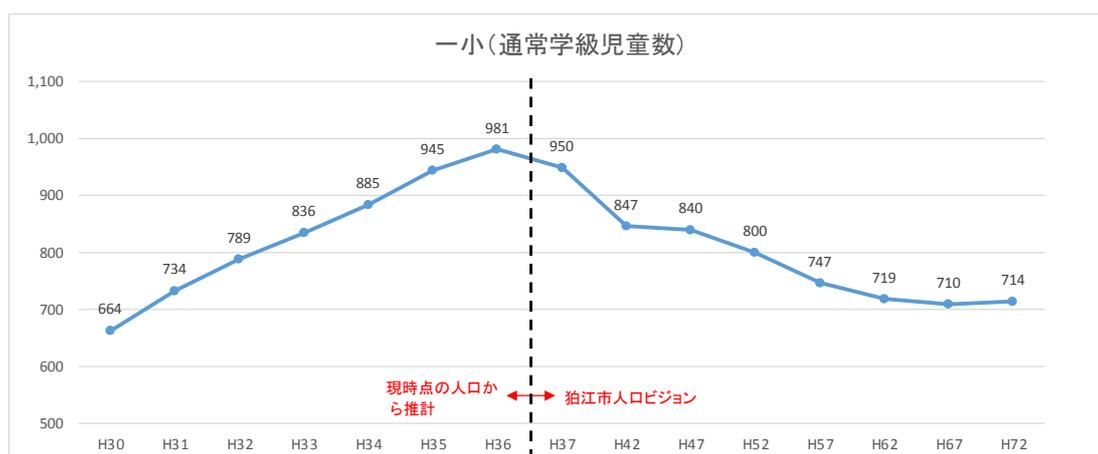
松原市長の指示により、計画を白紙に戻し、将来、児童数が減少した場合の転用方法も意識し、改めて計画の見直しを行った。

### (1) 児童数及び普通教室使用見込み

狛江第一小学校通常学級の児童数について、改めて推計値の見直しを行った結果、次のとおりとなった。(平成 37 年度以降は人口ビジョンを基に推計)

■狛江第一小学校(通常学級)

年度別	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H42	H47	H52	H57	H62	H67	H72
児童数	664	734	789	836	885	945	981	950	847	840	800	747	719	710	714
学級数	20	21	23	24	26	28	28	28	25	25	23	22	21	21	21



### (2) 既存の学校スペース(特別教室等)の活用・転用

既存施設の転用を優先させ、特別活動室、オープンスペース等活用・転用可能な教室等を全て普通教室化することにより、28 教室を確保する。

### (3) 校舎の増築

少人数指導や音楽指導に必要な教室の確保と、KoKoA・放課後クラブの不足に対応するため、既存校舎東側に 3 階の校舎を増築する。

校内のバリアフリー化をすすめるため、校舎増築に伴い設置するエレベーターのみ旧校舎に合わせ 4 階とする。

増築する校舎は、将来、通常学級の児童数が減少した場合においても、数十年間は高い水準で KoKoA・放課後クラブの利用需要が継続するものと保育園の保育需要率からも推測され

ることから、これらの事業での活用が見込まれる。さらに、KoKoA・放課後クラブの利用児童が減少した場合においては、旧校舎と区分して使用することが可能であることから、デイケア等の高齢者向けの施設として転用する等、地域や時代のニーズに応じた施設として活用できる。